

**滋賀県高島市新旭町針江地区における
水辺景観に共通する景観構成要素の成り立ち
Structure of common component to waterscape
in Harie District, Shinasahi-cho, Takashima City, Shiga Prefecture**

北澤 大佑* 藤本 信義** 齋藤 雪彦*** 望月 久恵****
KITAZAWA Daisuke, FUJIMOTO Nobuyoshi, SAITOH Yukihiko, MOCHIZUKI Hisae

1. はじめに

農業農村地域においては、地域独自の景観に配慮した取組みが行われている。本報告は、滋賀県高島市新旭町針江地区を事例として、当該地区の水辺景観に共通して見られる景観構成要素に着目し、地域固有の景観構成要素の成り立ちを読み取ることで、農業農村地域における景観特性を理解するための手立てを探ろうとするものである。

2. 滋賀県高島市新旭町針江地区の概要

当該地区は、滋賀県の湖西地域に位置し、比良山系から流れ出す安曇川から涵養された地下水が湧き出る水の豊富な地区である。地区内の民家には豊かな湧水を生活用水に活用するため「川端（かばた）」と呼ばれる洗い場が設置されている。当該地区における川端や水路など、湧水の汲み上げ、水質管理や浄化といった湧水を生活に活用するための独自の形体や仕組みを有した景観構成要素が存在している。これらの地域独自の形体や仕組みなどに当該地区の水辺景観における視覚的な共通性を確認することができる。

3. 針江地区の水辺景観において共通性が見られる景観構成要素

当該地区の水辺景観に共通して見られる構成要素を挙げる。

1) 比良山系からの水のネットワーク

比良山系から流れ出す安曇川の河川水は、安曇川扇状地の上部で伏流し、一部はかんがい用水として水田に引き込まれた後に地下浸透しており、当該地区の上流域は、扇状地の地下水の涵養源となっている。安曇川扇状地の地下水の大部分は、琵琶湖の湖底に湧出していると考えられるが、その一部は、針江地区などの生活用水として利用され、集落内の水路から針江大川に合流し、琵琶湖に注いでいる。

2) 地下水脈の上に形成された集落

地下の一定の深さ（13m～24m 程度で場所によって異なる）まで鋼管を打ち込むことによって地下水が自噴し、各民家ではこの湧水を生活用水に利用するための川端と呼ばれる洗い場を備えている。さらに、当該地区内では、弥生時代中期の川端跡が発掘されていることから、湧水が自噴する場所に川端を備えた民家を建て、このような民家が集まることで水脈の上に集落が形成したものと考えられる。

3) 水質管理のため3戸の川端で利用する水路の配置関係

隣接する3戸の川端に対し1本の水路を配置する構成となっている。この配置は、水路の水質を管理するための仕組みである。川端は湧水と水路の水を混合して水路に排水するため下流の川端を利用する人に配慮し、水路を3戸の川端で利用し、川端から排水される水を汚さないことが暗黙の決まり事となっている。

*社団法人 農村環境整備センター

**とちぎ協働デザインリーグ/宇都宮大学名誉教授

***千葉大学園芸学研究所

****株式会社 本郷計画事務所

Advice Center for Rural Environment Support

Tochigi Collaboration Design League

Graduate School of Horticulture, Chiba University

Hongo Planning Office Co.,Ltd.

4) 川端における湧水の汲み上げ、活用のための構造

地下の水脈に鋼管を打ち込み湧水が自噴するところを「もと池」、もと池から湧き出る水を溜めるところを「つぼ池」、つぼ池の水を受け、鯉などの魚が飼われているところを「はた池」という。川端では、もと池の湧水は飲料水や生活用水として利用され、つぼ池では野菜を洗ったり冷やしたりし、はた池では食器類などの洗い物がされる。食器についた残飯は鯉のエサになり、はた池から排水される水を浄化する仕組みとなっている。各戸の川端にはポンプがあり、もと池の湧水を主屋に引き上げ生活用水として活用している。水路から堰上げにより引き込んだ水によりはた池の水を循環し、水路に排水している。

5) 川端の形態と主屋との配置関係

川端には、主屋と一体になっている「内川端」と主屋から独立している「外川端」とがある。近年の民家の建て替えにより、内川端であったものが外川端となるもの、川端の建屋が取り除かれもと池、つぼ池、はた池のみを残すものもある。

6) 川端に水を引き込む堰上げ

川端の水を循環するために、隣接する水路を堰上げ、水を川端に引き込む仕組みを造っている。地区内の水路は、3戸の川端からの排水を集めて排水する小規模なものであり、一定量の水を川端に引き込むためには、水路を堰き止めて水溜めをつくり引き込む仕組みが適していると考えられる。

7) 水質浄化を果たす鯉

川端から排水される水は下流の川端に引き込まれるため、水をきれいに使うことが暗黙の決まり事となっている。川端で食器類などを洗う際、鯉などの魚は残飯などを食べ水質浄化に役立っている。針江地区の多くの川端では鯉などの魚が飼育され、水路においても水質浄化を果たす鯉が共同飼育されている。

8) 植栽や竹の覆いによるはた池の鯉の生息環境の形成

鯉などの川端で飼われている魚は、川端から排水する水を浄化するために必要な存在である。その鯉などの魚が棲みやすい環境をつくるために、はた池に日陰をつくりだす植栽や竹の覆いなどが施されている。

9) 水質の指標となるバイカモ、セキショウモの繁茂

当該地区内の水路に生息するバイカモやセキショウモは、清流のみで花を咲かせるため、水の清らかさを示す指標となっている。さらに、刈り取られた藻などの水草は、農業用の肥料として活用される。

4. 針江地区の水辺景観における法則性、拘束性（デザインコード）の成り立ち

農業農村地域における景観は、住民の手による生活や生産のための意図的な働きかけの結果として形成されたものである。当該地区における水辺景観には、湧水の汲み上げ、水質管理や浄化など湧水を生活に活用するために、景観構成要素の造りや仕組みに地区独自の共通性が確認された。このような共通性を有している景観構成要素は、農村の営みの意図的な表れの中にあり、社会が受容している法則性または拘束性により形成され、継承されてきたものであるといえ、地域のデザインコードとして捉えることができる。さらに、このような地域のデザインコードの中には、その成り立ちが生活や生産活動の枠組みにおいて、相互に関連しているものがみられることから、地域の景観特性を理解するためには、デザインコードの成り立ちを読み解くことが重要な手立てとなるといえる。